

古知谷こち光明山たにくわうみやうさん阿弥陀寺あみだじは勝林院しょうりんあんより十八丁北なり、「むかしは鴛谷をしたにといひしとなり」浄土宗にして、本僧阿弥陀あしんそうづは恵心僧都えしんそうづの作なり。当寺の開基だんせい彈誓上人をはりのくには尾張国おみのくにあまべの里に出生し、幼名を弥釈丸みしやくまると号す、九歳の時出家し、美濃国みのくに塚尾つかをの観音に百日参籠し、念仏諸行に勝る、靈文をさづかり、夫より自行のために山居し、あるひは国々を経廻して花洛くわらくに至り、五条ごうの橋を通り給ふとき、洛北らくほくのかたに紫雲空に鬚鬚、光明赫々としたる所あり、これを慕ふて遂に此所に至り、是ぞ有縁の靈地となりとて、則一字の堂舎を建立しけり。其時頭に雪をいたゞきたる老翁、阿弥陀仏一体を持来り、本尊にし給へと上人にあたへ、忽然として行方なし、当寺の本尊これなり。開山堂かいさんだうには彈誓上人だんせい自作の像を安置す。〔開山上人かいさんの存生は有髮の道心者なり、滅後此像に髮を植る、世に植髮の木像とも云〕